

# 2010年度 代表事業③

## 5周年記念国際交流事業

5周年記念国際交流委員会

副委員長：花城 孝尚

副委員長：島 武志

委員長：海野 洋平

幹事：肥田 渉



### 事業趣旨要約

本年度、(社)静岡青年会議所では「Cool Shizuoka」をテーマに掲げ、まちと人のグローバル化に着目し、ローカルイズム運動を基軸とした国際交流事業を展開して行きます。海外では「静岡」の認知度は低く、この状況を打開するにも「静岡の魅力」を広く発信していく事が大切だと考えます。しかしそれを発信するには私達自らが、静岡の豊かな自然や歴史・食などを知り、郷土を愛する「静岡人」にならなくてはなりません。また海外で人の心と心の通った交流を行い、静岡を広く発信することで、グローバルな視点で物事を考えることの出来る「国際人」の成長に繋がると考えます。この国際交流事業では身近に国際社会を担うであろう18歳～24歳までの青年に「静岡の魅力」を探索し、学んだ上で実際に発信した体験を活かし、今後の活発な相互交流への発展に繋がられる人材育成の場を提供してまいります。事業を通じ、携わった全ての方が郷土を愛し、海外での様々な交流を通して出来る人と人とのつながりを創る事で「国際人としての静岡人」への成長に繋がれ、更には「つよいC」の構築につながると確信し取り組んで行きます。

### 背景

日本の経済は世界とつながっている。  
海外から静岡を見たとき、静岡は殆ど認知されていない。  
昨年、富士山静岡空港が開港し、静岡も国際化を目指し動き出している。  
静岡に住む私達でさえ、まだまだ静岡には気がついていない魅力がある。

### 効果

- 【対外】
  - ・現状の日本の現実を知り、今後の地域社会・地域経済の中で活かせるノウハウを学ぶことが出来る。
  - ・大学や企業では得難い、人と地域にネットワークを構築する事が出来る。
  - ・静岡のたからを探る事で、郷土に愛着を持つことが出来る。
  - ・行政の取組を理解し、今後の活動に反映出来る。
- 【対内】
  - ・参加者と共に現在の社会情勢を学び、世界に誇れる地域のたからを再認識出来る。
  - ・今後の地域社会発展のために必要である、グローバルな感覚を養うことが出来る。
  - ・県都、LOMの担い手として静岡県と協働する事で地域とのかかわりを深められる。
  - ・5周年を機に更なる結束力を作り、「つよいC」の構築、「つよいShizuoka」への進化につながる「基本方針 Cool Shizuoka!ローカルイズムを基軸とし世界との交流を創造する」の実現に関する事項
  - ・地域の魅力を知り、発見し、地域の魅力を海外へ発信することで、世界との交流を創造する。

### 例会の流れ・目的

- 中国を訪問して現地大学生との交流を通して静岡の魅力を中国の人及び世界の人に向け発信する。異文化を肌で感じる。(発信内容)
- 海外事業  
(発信内容) 中国及び世界の人達へ向けて、静岡の魅力オリジナルプレゼンをする。  
(国際交流内容) 中国の学生との交流パーティーと一緒に静岡の魅力の発信をする。  
中国の学生と共に行動をし、異文化を学ぶ。  
(効果) 中国及び世界の人達との交流を行う事で、グローバルな視野を身につけ、また友情を育む。(グループによる模擬プレゼン)
- ・交流パーティーの前に、2日目に目録発表を各グループ毎行う。
  - ・自己紹介を行い、参加者と中国の学生と発表に関してディスカッションを行う。(交流パーティー)
  - ・中国の学生と飲食を含めた交流パーティーを行う。
  - ・アトラクション・ディスカッション等を行い、中国の学生との友好を深める。(静岡の魅力発表)
  - ・探究事業・体験事業で学んだ静岡の魅力、中国及び世界の人達に向けてオリジナルパーティーのあるプレゼンをし発表する。
  - ・中国の学生と共に発表を行い、より交流を深め、達成感を共有する。
  - ・参加者にとって、今回の国際交流事業の集大成としての場とする。(交流)
  - ・中国の学生と共にグループで異文化見学を行い、夕食を共にし更に交流を深める。
- 10月10日(日) (上海万博見学)
- ・世界の最先端の技術を知り、世界がこれから何を必要としているかを見学する。
  - ・世界最大のイベントに参加し、更にグローバルな視野を廣く。

### 達成検証

事業目的に達した点(対外)：講師の先生の講演を聞くことで、社会情勢を学び、静岡の魅力海外に行き国際交流を踏まえ、発信することが出来た。  
事業目的に達しなかった点(対外)：参加者が予定していた人数集まらなかった。  
事業目的に達した点(対内)：静岡県、静岡市の行政とも連携・協力を頂き行うことが出来た。グローバル意識を広く持ちこたうことが出来た。  
事業目的に達しなかった点(対内)：JCMメンバーの参加率が悪かった

「基本方針 Cool Shizuoka!ローカルイズムを基軸とし世界との交流を創造する」の実現への効果  
地域の魅力を知り、発見し、海外へ発信する事で世界との交流を創造する

### 所見

海外で国際交流を踏まえ静岡の魅力を発信するという事で、目標設定が明確に出来、その目標を達成する為に事前授業や準備がしっかりと出来たと思います。今まで考えもしなかった静岡の魅力を再認識することが出来、講師の方々の講演が「国際」という言葉に参加者にとっかかりと意識させる事が出来ました。また、海外授業を中国にした事で、今の日本とは異逆でパワーのある国を選定したことで、より中国の魅力を知ることが出来、実際に肌で感じる事が多くありました。また、主催者側としても、参加者は私達が考えもしなかった個性溢れる発想が数多くあり、静岡の明るい豊かな社会の実現を目指す私達の今後の活動への大きなヒントを得る事が出来たと思います。

今回の事業は、これから先未来の静岡の発展を創造し「つよいShizuoka」を構築する為に、必要な要素が沢山詰まった事業であり、多くの仲間を作ることが出来、目的以上の効果を得たと思います。

### 目的

- (対外)  
社会情勢を学び、世界に誇れる地域のたからを発信する事が出来る「国際人としての静岡人」の育成
- (対内)  
参加者と共に社会情勢を学び、世界へ誇れる地域のたからを再認識し郷土愛を育み、グローバルな感覚を養うこと。
- 5周年事業をきっかけに静岡県などの行政と連携・協力を図ることにより、より効果的なまちづくりを行う。  
「ふじのくに3776友好訪中団」と共に富士山静岡空港の利活用を促進し地域発展の一助となること。

### 事業概要

1. 実施日時  
国内授業1～3 2010年9月4日(土) グループ会議 2010年9月5日(日)～9月23日(木)  
国内授業4～6 2010年9月25日(土) 海外授業1～6 2010年10月10日(日)～10月13日(水)  
事業検証会 2010年10月30日(土) 16:00～19:00
2. 実施場所・会場  
国内授業1～3 ベガサート 6F 静岡市葵区御幸町3番地の21 054-275-1655  
国内授業4～6 静岡商工会議所5F 静岡市葵区黒金町20番地の8 054-255-5593  
海外授業1 上海市内 ジェイドリンクホテル内会場 海外授業2 上海万博会場内  
海外授業3 杭州市内 クラウンプラザ内会場 海外授業4 杭州市内 浙江工商大学内会場  
海外授業5 杭州市内 浙江工商大学内会場 海外授業6 上海市内 ジェイドリンクホテル内会場  
事業検証会 静岡労政会館6F 静岡市葵区黒金町5の1 054-221-6280
3. 参加人数報告  
対内：静岡青年会議所メンバー 247名 対外：一般参加者 54名
4. 決算総額を記入(事業決算報告書は別紙にて添付) 5,500,000円



#### 担当委員長Q&A

##### 01 事業選定の理由、想いを聴かせてください。

2009年6月に富士山静岡空港が開港しました。今後は世界に目を向けてグローバル感覚を養うとともに、静岡の魅力を改めて知り郷土愛を深めることが必要だと考えました。静岡には世界に誇れる地域資源が多くあり、その地域資源を地域の宝として世界に発信し、静岡空港を利用した交流人口・観光人口の増加と、行政と共に地域経済の発展の一助になることを目的に事業を行いました。

##### 02 メンバーをまとめる上で苦労した点を教えてください

とにかく色々な案を出して、メンバーに意識を高めてもらうようにしました。「国際交流は大変だからこそ楽しい」という意識に変えるために、自分たちの事業がどんな可能性を秘めているのか、どんなにすごいことをしようとしているのかを沢山話しました。

##### 03 メンバーをまとめる上で工夫した点を教えてください

04 事業を行う上で苦労した点を教えてください

年当初は、韓国の仁川Cと子どもたちのサッカー大会を開催しようとしていました。しかし、相手の事や事情をよく知らない上に、日本目線で進めようとしていましたが、上手くいきませんでした。年度の途中で、急速に経済成長が進む中国と交流することが、世界を見る上で一番だと判断しました。当時県でも「ふじのくに3776友好訪中団」を組み、中国との交流を盛んに行っていたことから、県とタッグを組み中国の浙江省で静岡の魅力を発信する事業を行いました。苦労した点は、文化の違いや習慣の違い、考え方の違い、言語の違いなどがあり、例えば、3日後に打合せに来て欲しいと言われたり、当時の尖閣諸島問題から事業3日前になり事業を取りやめたいとの連絡があったりと事業当日まで混乱が続きました。

##### 05 事業を行う上で感動した点を教えてください

中国浙江省の浙江工商大学で静岡の魅力を発信する場として「COOLSHIZUOKAFAIR」を開催しました。参加者が静岡について中国人にわかりやすく一生懸命に伝え、それを興味深そうに聞いている浙江工商大学の学生を見た時に感動しました。また、お互いの記念品を藤田理事長と浙江工商大学の学部長と交換した時にお互いが結ばれた気がしました。最後の事業報告会で、参加者のいきいきと希望に満ちあふれた表情を見た時、海外事業参加者の一人が会社を辞め、世界を舞台に活躍する人間になると報告しにきてくれた時も本当にうれしく思いました。

##### 06 事業に協力してもらった企業・団体に対する想いを教えてください

静岡市の企業や各大学から参加者を募り、本事業で普段企業や大学では学ぶことの出来ない国際交流という経験が出来たことは、多くの企業や団体に御協力いただいたからこそです。特に静岡鉄道には多大なる御協力をしていただきました。本当に多くの入りにこの事業の趣旨への御理解を得て、御協力をしていただいたからやり切ることが出来ました。

##### 07 事業の中で1番印象に残った出来事は何ですか？

国が違えば、文化、習慣、考え、言葉も違います。しかし、人間と人間という部分では共通していて、そこには何の隔たりもありません。お互いが相手のことを想い、真剣に交流をすることで、分かり合うことが出来ました。

#### 取材全体としてのまとめ・感想

国際交流という静岡JCIの中では馴染みの薄い事業であり、かつ初の国外での事業と言うことで対内的にも対外的にもかなり苦労された事業だったと思います。静岡の魅力を発信する前に相手の国や文化を学び、理解することから始めたからこそ相手に響くプレゼンができたのだと思います。

##### 08 海外において異文化交流を通じ静岡の魅力発信し、静岡の素晴らしさを再確認する事業ですが、海外事業選定を中国にした理由を教えてください。

当時の社会情勢から中国が急速に経済成長している、参加者にグローバル感覚を養ってもらうためには、中国が一番だと確信しました。また、当時県の事業としても中国との交流をしており、県との協力体制を取ることが出来たので事業を進めやすかったです。

##### 09 海外事業を行うことにより参加者・JCメンバーに何を感じ、どの様に成長してほしいと思われましたか？

グローバル感覚を養い、静岡JCIの事業へ還元し、静岡のまちづくりやひとづくりの事業に対して、より効果的に活かすことが出来るようにと願っています。

##### 10 当時の静岡の魅力プレゼンを聞かせてください。また、4年経過して新たに追加できる魅力はありますか。

静岡の「宝」（緑茶やしずおかおでん等）の定義を班ごと作り、それをテーマにプレゼンテーションを行いました。一方的な情報発信ではなく中国の人に「しずおかおでんを食べに静岡に行ってみたい!」と思ってもらえるようにするため、相手の国や文化を学び理解した上で静岡の宝の魅力を発信し、受け入れてもらえるようにプレゼンテーションを行いました。

##### 11 中国での活動で思い出に残っている事はありますか。

上海万博に行ったり、高さ世界一の森ビル展望台に行ったりと成長著しい中国の今を肌で感じる事ができました。

##### 12 海外事業ということで、一般参加者、JCメンバーの募集に苦労があったと思います。どのような工夫をされましたか？

募集をする際に、とにかく委員会内で国際交流の重要性やこの事業の意義を共有しました。その後に情報を詰め込み、企業や学生に情報をもって募集をかけられるようにしました。



#### 取材前後の特に気付いた点

静岡県と中国が当時盛んに交流を行っていたため、スムーズに事業が行われたものだと思っていたが、国民性の違い、政治背景などで相当苦労された話がとても印象的でした。